はじめに　―富山市子ども読書活動推進計画策定までの経緯

以前の会報で、計り知れない大きな力が近年ひたひたと、子どもと読書を取り巻く世界を支配し始めているようで、「恐怖さえ感じる」と感想を述べたことがありました。それがみるみるうちにきちんとした名前をもつ法律という形で私たちの目の前に現れてきました。２０００年に制定された「子どもの読書活動推進に関する法律」がそれです。さらに、翌年に作られた国の基本的な計画、翌々年の富山県の推進計画、そして今年は富山市の計画の策定・公表です。

「怖がっているようには見えない。図書館を考える会は、策定には積極的だったじゃないか。」と思う方も多いかと思います。「読書は推進するという質のものではない」という考えに変わりはないのです。けれども、どう働きかけても作ることを止めることができないのであれば、知らない間に作られたくはないし、この計画をきっかけに学校司書の配置状況が良くなればという思いが強かったため、国や県への働きかけを時間を割いてやってきたわけです。

ここで富山市の計画へのかかわりを報告いたします。この富山市の計画策定は、全国の計画が作れられる過程とは少し違う手順を踏みました。富山市で作られる他の分野でのそれとも違ったのではないかと思います。まず、自由参加の形式で、草の根的に活動してきた市民団体や現場の学校司書から実情を聞くというワーキンググループ会議が開かれ、この参加メンバーの中から４名が策定委員に選ばれました。大半を有識者の方々で組織されることが多い審議会の中で、このような形をとられたことは、最前線の現場の声を聞き入れて、より現実的な計画にしたいという策定事務局の強い意志を感じるものでした。私たちはこの意志に答えたいという思いで、会議の事前に郵送された骨子案を検討するために、公募委員の方もお誘いしての事前学習会を４回開き、会議では伝えきらない意見は書類にして提出するという形をとりました。委員がほとんど発言しない審議会もあるというなかで、なかなか熱意あふれる有意義な会議だったのではないかと感じています。

これらの意見は策定事務局で誠実に対応され、多くの部分を計画に盛り込んでいただくことができました。たとえば、「読書は日々の暮らしの中から始まる」という基本的理念と、「環境を作る柱はまず公共図書館であり、もうひとつは学校図書館である」という基本的方針を高らかに表明されたことには、誇らしささえ感じることができました。

けれども、どうしても変わらなかった箇所がありました。それは「学校図書館司書の配置は週２回以上巡回」というところです。他の箇所が、会議を重ねるごとに、より発展的に変更されたにもかかわらずです。

お気づきの方も多いかと思いますが、この箇所は新たな大きな予算を伴うところです。緊急財政プラグラムが発表され、市町村合併を控えている富山市の現在の状況で、これを「専任・常勤での勤務」という記述に変えられる裏付けはどこにも見当たりません。図書予算も大幅に増額し、蔵書のデーターベース化も厳しい予算の中でやり遂げられた富山市にとって、学校司書の１校専任化は、新たな大きな負担なのでしょう。でも言い換えれば、子どもたちのために学校図書館の充実を願う私たちにとっては、「専任・常勤」は大きな悲願なのです。そのため２回の会議とも、４名と学校司書、公募の方を含めての７名はかわるがわるにこの点だけをお願いするということになってしまいました。それでも、変更はありませんでした。

そして「２回巡回」のまま、この計画案はパブリックコメントにかけられたのです。ところがなんと、他の項目が誠実な希望を感じられるものだったためでしょうか？コメントは「２回巡回」に集中し、「専任・常勤」を求めるコメントが総数５７通中５３通におよんだのです。そして、結局は計画案には盛り込まれませんでしたが、パブリックコメントへの対応の記述の中に「まずは、週２回以上の巡回の実現に努め、専任・常勤についてはその後の検討課題と考えております」という答えを引き出すにいたりました。さらに、計画につけられた「策定までの経緯」の中に「策定会議やパブリックコメントで出された意見の中で、今回の推進計画に盛り込めなかった事柄については、次回の計画において再度検討します」という記述が盛り込まれました。

ここまでの経緯を知って、私たちのやり方が「詰めが甘くてがっかりした」と感じられるかたも多いと思います。本当に申し訳ない限りです。けれども「もっと何をどうすればよかったのか？」を私たちも後５年の間、考えながら動きながら活動を続けていこうと考えております。それでは、せっかくできた「暮らしの中の読書環境整備計画」を祝う、私たち市民が用意いたしました講座の記録をどうぞご一読ください。

富山市子ども読書活動推進計画ができます！

どんなもの？どう使う？フォーラム

２００４年７月２６日（月）富山市民プラザアンサンブルホール

２回の策定会議が終わり、案が公表されてパブリックコメントが集約されたものの行政上の手続きのつごうで、まだ、計画が正式に策定されてもいない時期でのフォーラムとなりました。そのため、基調講演をいただいた広瀬恒子さんとパネラーをしていただいた武塙館長には、なんともやりにくい会となってしまいました。けれども、こんな途中でのお披露目も、県内で計画策定を考えている他自治体のかたがたには参考となるのではないかと思われ、開催いたしました。この思いが通じたの、策定事務局をされるであろう公共図書館や教育委員会のかたがたが多数集まってくださいました。

感　想

＊広瀬先生が「富山市の案の『はじめに』にあるすばらしい言葉と『「学校司書の週２回巡回」は矛盾している』「学校の図書室は、毎日学校司書がいてこそ子どもの要求に応えていけるのではないでしょうか」と述べられたところに強く共感しました。

＊専門家としてますます自分を鍛えて、学校図書館が充実してゆくよう頑張ろうという気持ちが強くなりました。

＊大変参考になりました。ねばならないではなく、努めると逃げ腰しで、市立図書館と学校図書館がどう環境整備されていくのかも具体的でなく、読書ボランティアも多数増産されていて、司書という言葉のない情けないＫ市の推進計画ですが、あきらめずに声を出していきたいと思っています。計画には、実際行ってみての見直しをするという文がありますから。

こわ～い話と立ち絵紙芝居

杉山　亮・物語ライブ

２００４年８月２４日（火）富山県総合福祉会館福祉ホール

奇をてらっているのでもなく、押し付けているのでもないけれど、笑いのツボをついてくるので、笑わずにはいられない言葉たち。昔話でもなく、落語でもないけれど、とにかく面白くてしかたがない物語。児童文学者が言葉を扱う物語りは、なんて楽しいのでしょうか。こんな物語ライブを体験すれば、楽しさをきっかけにきっと本へと手が伸びることだろうと思います。暮らしの中で日常的に物語を親しむという富山の計画にもっともふさわしい語り手をお招きすることができました。

プログラム

本当にあった『ひつじの恩返し』
あなたが物語りの筋を決めるんです　『用寛さんトラ退治　上巻のみ』
本当にありそうな『おろか村の話』
怪談　『番町皿屋敷』

感　想

＊怪談話がとてもこわかったです。子どもたちが１番印象に残ったと言っています。

＊杉山さんのあたたかい人柄が伝わってくる楽しいお話でした。用寛さんの下巻がぜひ聞きたいと子どもが

言ってます。
＊おはなしライブってどんなの？って思っていましたが、こんなに楽しいなんて、うちの子どもは登校日でした。これたらよかったのに。たくさんの親子がこんなお話を聞けたらいいのにね。聞けるようにしてあげなくちゃと思いました。
＊参加体験型のお話はワクワクしました。自分たちでお話を作っていけるかんじって、新鮮でした。
＊人から人へという生のお話、サイコーでした。用寛さんの下巻聞きたいです。またぜひきてください。
＊いろんな笑える話やこわい話があって楽しかった。サインもしてくれたからうれしかったです。
＊楽しいイベントありがとうございました。息子（小１）はとても喜んでいました。
＊以前に読み聞かせ会に参加することがあって、とてもこのときも喜んでいました。今まだ「本を読むのが大好き」というわけではなく、読んでやると聞いているという様子です。これからの子どもたちが、本を通して大きな心を持って、いろんな思春期のこわいできごとがもうおこらないようになってほしいと願っています。

―なお、杉山さんの話に笑い転げる子どもたちの表情が、チューリップＴＶの夕方の番組『ニュースの森』のオープニングの画面に使われました―

本が好きになるブックトークの会

２００４年９月１８日（土）富山県総合福祉会館福祉ホール
岡山市学校司書　永井悦重氏

久々に来ていただいた、岡山市の学校司書の永井悦重さんに日ごろ、勤務される中学校の図書室でのブックトークを披露していただきました。ずいぶん、県内の学校図書館でのブックトークも行われるようになってきましたが、学ぶ機会の少ないためか、ブックトークなのか、授業なのか、わからなくなるような自己流での悩みが深く、ここでもう１度、ブックトークとは「テーマがわかることが目的ではなく、紹介された本を読んでみたいと思ってもらうのが目的」なのだと確認しあうため、ずいぶんやりにくかったとは思いますが、中学生にやるつもりでとお願いしたブックトークの会でした。できれば、大人は勉強のためでも。小・中・高校生には、楽しんで本を読みたい気になってもらうという大変欲張りな企画でした。でもさすがに長年中学校で司書され、ブックトークの推進者です。自然に押し付けることなく本を進めるその技術はすばらしく、子どもへの読書との出会わせ方は、あくまでも読む人の主体性を重んじることなのだと確認することができました。この姿勢こそ、富山市の子ども読書推進計画の理念です。
「押し付ける読書」ではないのだと、前回の杉山さんに続いて、この回でも小学校高学年から高校生に幾分伝えることができたのではないかと自負しています。
参加者大人１２０名　小学校６年生～・中学・高校生　４０名

●　図書館オリエンテーション　●

永井さん「まず、私が勤務している中学校で４月に２・３年生を対象にして行いました、図書館オリエンテーションのクイズ『クイズに答えて図書館を知るあなたは何問わかるかな？』からやってみたいと思います」
①『新撰組の多くは農民だったというのは本当か？』
永井さん「何かこれについて答えていただける方はおられませんか？はいどうぞ」
会場　　「多くは農民だったと思います。根拠はＮＨＫの大河ドラマで見ています。」
永井さん「そうです。もちろん武士出身の人もいたわけですが、中心人物の近藤勇や土方歳三、沖田総司などの人達は割りと裕福な東京都の農民出身だったようです。インターネットでも新撰組で検索すれば多くのサイトが出てくると思いますが、本のほうがより確実だと思います。２１０と言うのは日本

史の分類番号ですが、この近世から近代の辺りを見ますと新撰組に関しての資料がたくさんあると思いますから、どこ出身かというのは書いてあります。」

②『映画〈THE LORD OF THE RINGS〉の原作名と作者の名前は？』

永井さん「いかがでしょうか？」

会場　「トールキンの『指輪物語』です。」

永井さん「映画はつい最近完結しましたが、映画が出来る前から〈指輪物語〉は 20 世紀最大のファンタジーといわれ読まれてきました。講談社の文庫本などは字が小さくて敬遠する人もいますが、映画のせいでよく読まれるようになりました。これは英米文学のところ９３３のトのところを見るとトールキンで〈指輪物語〉が出てきます。同じ作者の関連図書として〈ホビットの冒険〉などもあわせて見るとよいと思います。インターネットで調べても、
映画が話題になってますので〈指輪物語〉なども出てくるのですが、本で調べた方がいいかなと思います。」

③『今世界にはいくつ国があるか？』

永井さん「何で調べたら出いいかという答えでもいいですから・・教科書に出ているかもしれません。」

会場　「約 160 くらいだと思います。調べる時は、朝日の少年社会科統計からがよいと思います」

永井さん「インターネットでもおそらく調べられますが、私が子ども達と調べた時は、何年か前の情報がインターネットには出ていました。毎年更新される世界国勢調査とかのほうが、いろいろ毎年更新されるものがあり、それのほうが情報は新しいと思いました。」

④『南極の温度は何度か?』

永井さん「地理関係の本や理科年表のようなものでもわかります。ただこれは、一番近い日の温度が南極昭和基地のホームページがあります。それを見ると今が何度だというのが出てきますので、インターネットの方が今の状況をかいてあってよいかと思います。」

⑤『AMADA とは何か?』

永井さん「岡山市に本部があります。アジア医師連絡協議会というものの略です。アジアのボランティアの医師や看護士が集まって、地震があったり戦争があったところなどに出向いて、医療活動にあたる国際的なボランティア組織です。これはホームページにも載っていますから、今までの活動などをインターネットでほぼ見ることができ､インターネットの方が詳しい情報は得られるかなと思います。もちろん〈現代用語の基礎知識〉とか〈イミダス〉などにも出ていますし、AMADA が出している本も何冊かありますので、それでも調べることが出来ます。」

⑥『人質になり開放された高堂さんは、何をしていたのか』

永井さん「当時新聞にも毎日記事が出てましたし、テレビでも毎日のように報道されていましたので、新聞で調べるのが一番です。インターネットでも調べられますが、新聞の紹介という形で出ているところが多かったので、これはやはり新聞記事ということになるかと思います。」

永井さん「このようにオリエンテーションは、実際に子ども達に本棚の前で見てもらったり、傍にあるコンピューターでインターネットで調べてもらったりして、どちらが早く見つけられるか、どちらの方が詳しい情報かというようなことを比較しながら行います。そのほかに新聞記事なども含めて、いろいろな調べ方を体験してもらうということで、2 年生 3 年生のオリエンテーションを今年の 4 月に実施しました。そのほか、図書館の開館時間、貸し出し期間と冊数、図書館利用の決まりなども説明します。あわせて図書館の約束として、①図書館は皆さんの知りたいこと調べたいことを徹底して応援しています。－学校図書館にある本はたかが知れています。１万冊か２万冊位のものだと思います。市立図書館や県立図書館や国立国会図書館などとは比べ物にならないくらい、蔵書は少ないのです。けれども学校図書館にある本だけではなくて、公共図書館と連携をとりながら、皆さんの知りたいことは徹底して答えるという姿勢です。②図書館は読みたい本を手渡します。－読んでもらいたいという本も手渡します。③図書館は読書の秘密（＝プライバシー）を守ります。－誰が何を読んでいるかは第三者にはけっして知らせない。という３つの約束を伝えます。

　そのほかにいろいろな行事も紹介します。たとえば、宇宙って無限だということで秋に星空を眺める会を企画しました。宇宙って無限大と言われていますが、本当にそうなのかを理科の先生に雑

学的にお話をいただき、星座関係の神話を劇にして演じ、星のよく見えるスポットを紹介したり、それから宇宙食を試食するという会にしました。それから放課後、学年やクラスを超えて皆が図書館に集まって、よく読まれている『カラフル　森絵都作　理論社』を読むという読書会などもしています。「図書館は自分の読みたい本を読んだり、本を紹介してもらったり、色んな行事をするところです。皆さん是非、学校図書館をしっかり利用してください」と伝えます。あと実際に本棚の前を歩いてもらって、色んな本を見てもらいます。「図書館にはいろいろな本があります。皆さんには好きな本があって、この作家の本はもっとどんどん読みたいというのもあるでしょう。小説はあまり読まないけれども図鑑や趣味の本、コンピューターの本なら読むという人もいるでしょう。けれども、図書館にはまだまだ皆さんの知らない本がたくさん並んでいますよ。」と言って、本学校図書館のオリエンテーションが終わります。

● ブックトーク　● 別ファイルをご覧くださ

● 質問タイム　●

Q　図書館活動の中で、ブックトークはどの位の割合でなさっているのか？

A　去年は、本の紹介などは入れずに、ブックトークとして 25 時間くらいです。去年はあまり多く出来ませんでしたが、平均して年間 50 時間位です。

Q　それはどういう形態でのものでしょうか？

A　学級活動の時間に教科と関係なくすることや、自習になったり、先生が出張などで不在になった時間にすることもあります。一年生の国語の教科書に「大人になれなかった弟たちに・・」という話に関連して、戦争に関するブックトークをお願いされてしたこともあります。教科に関連したものと、楽しむための読書と両方あります。教室もありますが、図書館に来てもらって行う方が多いです。日ごろから情報を集めておくことや、気になる生徒がいたりするとそういう子を意識して紹介することもあります。

Q　中学生に対しても、情報検索の方法などについても教えたりするのですか？

A　調べ学習をするときに調べるための本の紹介などもしています。また選択授業で、図書館活用講座などもあります。

Q　どのようにしてブックトークを教職員の方の授業の中に取り入れてもらえるようになったのですか？

A　最初はやはり授業に関連のないものを、自習時間にしたり、図書委員会でもしたりしながら、それを見ておられたその他の先生方が、やってほしいと言う依頼をしてくださって、授業時間にやるようになりました。あと、先生と色々お話をするなかで、調べ学習といっても生徒の中にはやらされているという生徒もいますので、資料と生徒の意識の間にあるギャップを埋めるために、「こんな本もあるんだよと」いうような橋渡しをすることもできるというお話をしました。時間のないときは本の紹介で終わることもありますが、1 時間くらい時間をもらってブックトークをさせてもらうようになりました。

Q　ブックトークと本の紹介の線引きのようなものが、永井さんにはありますか？

A　急に自習時間になったりして、子ども達が来た時には、新刊で面白そうなものを紹介するとか、オリンピックの前ですと、オリンピックに関連した本を紹介したりします。

ブックトークも本の紹介の一部ですから、本の紹介というのが広くあって、その中である程度本のつなぎを考えながら、全体として回るようにまとまったものがブックトークと言うのかなと思っています。図書委員が新刊をクラスで紹介したり、先生が資料をクラスで紹介したりすることも、司書にも分野的に弱いところもありますから、多いに奨励します。ここいらっしゃる中高生の方たちも、是非自分の好きな本をクラスで紹介してください。

Q　先生の図書室の勤務時間と、差し障りなければ勤務条件を教えてください。

A　だいたい朝 8 時から常時開けていて 8 時 20 分に職員会議が始まりますので途中閉めますが、5 時半まで開けています。でも部活動がありますのでそれが終わる 6 時半頃までは開けていますね。行事などが入りますと遅くなりますしね。規定の時間よりは多く開けています。　勤務条件は、岡山市の場合？２０人くらい人がいますが、そのうちの 6 割が嘱託職員で 4 割が正職員です。私は幸い正職員になれましたが、嘱託の方は週 36 時間と言う勤務時間はあるけれども、実質は正職員と同じように働いている人がほとんどです。

司会者　私達は、岡山市は全学校に司書が専属で配置されていてうらやましく思っておりましたが、実質嘱託の方が多いと言うことですね。富山でも各校に正規で専任の司書を配置しようと願って活動している者たちが、このフォーラムを企画したということを知っていただきたいと思います。この企画を通して、皆様方にどういう学校図書館を目指せばいいのかということを考えていたくための会になればと思っております。

感　想

＊紹介された本がおもしろそうなものばかりでした。いくつかは、先生と相談して図書館に入れたいです。
＊いろいろ参考になりました。
＊参考になったと思う。
＊回覧された本を手にした高校生が、さっそく「買ってー！」と言ったので「OK！買おう。買おう」と決まりました。利用者（児童・生徒）が本を手にして開いて見てみるところまで、フロアーワークが大切ですね。
＊大変参考になりました。
＊司書本人の意志と本の意志との線引き、見極めが微妙に思えた。
＊読んでみたい本がいくつかあった。話の流れが関連づけてあって、滑らかでとても聞きやすかった。資料などがあってわかりやすかった。少し本の中身を読むことで興味が出た。
＊新撰組やハウルはもちろんですが、今まで興味がなかった分野の本のお話も聞けて、もっといろいろな本を読んでみたいなと思いました。本に対する視野が広げられたと思います。
＊大変参考になりました。流れるようにブックトークをされて、私ももっと勉強したいと思いました。
＊おもしろい本を紹介くださってありがとうございました。
＊永井さんの読書の力（量？）のすごさに感心しました。
＊常日頃からの情報収集の大切さが改めて感じられました。日々の生活の中で「これ、使えそう！」と敏感に情報をキャッチする力を努力して身に付けていかなければと思いました。
＊永井さんの知識の引き出しの多い事に感心しました。富山でも学校の中で司書の活動が認知されていってほしいと思います。
＊本の知識の裏づけを感じさせるブックトークだったと思います。最近の中学１年生に行われたお楽しみ用のブックトークなども聞きたいと思いました。
＊知らない本が楽しく紹介されて良かった。子どもの読書離れ、読解力不足を感じるものとして、やっぱり学校図書館に専任の司書の方がいたらいいのにと思いました。
＊紹介された本は、どれも読んでみたいと思いました。すばらしいブックトークのおかげで、私も数冊買って読んでみます。
＊よその学校図書館はなかなか見ることができないが、今回はじっくり話を聞けてよかった。新鮮なアイデア、そのままいただきます。
＊話がおもしろく、読んでみたいなという本がありました。
＊本の紹介はやっぱり難しい。生徒に身近な本をさがすツールが知りたかった。
＊本の広がりがブックトークには必要だとわかりました。
＊いろいろな分野の本のいろいろなお話が聞けてよかった。
＊岡山市の中学校での実際と取り組みを生の現場で頑張っていらっしゃる学校司書の方から聞けてよくわかりました。
＊もっと学校や授業と司書の活動が結びつくよう頑張っていきたいと思いました。なかなか難しいですが。
＊豊かな情報に基づいたブックトークだったと思います。感心しました。私の希望としては、もう少し作者の紹介がほしかったです。
＊ブックトークが授業時間内に行えることが驚き、学校内での司書の位置付けの大切さを感じました。動きがないので、今日の話は夢のようだった。自治体の職員の方に聞いてほしかった。
＊授業に必要ないろいろな本を司書さんが準備される、すばらしいです。
＊公共図書館に勤める者としても、大変参考になりました。

結ぶと広がる学校図書館ネットワーク

２００４年１２月４日（土）富山県立図書館
千葉県市川市学校司書　高桑弥須子氏

感　想

＊学校図書館ネットワークは、不足を補うのではないとおっしゃられたことに、最初疑問をもちましたが、ご意見をよく考えてみると、広がりをもたせた学習をさせるという意味で、“拡充”というのは的を得た言い方だし、そうありたいと思いました。
＊ネットワーク構築の前に、まず自分の運営する学校図書館を充実させなければと痛感しました。高桑さんのお話はアドバイスにあふれていてとてもありがたかったです。今後の課題は、兼務の解消、先生方との連携、コンピューター利用者教育とのかかわりですね。
＊ネットワークで各学校図書館がつながっていることに頼らず、自立した学校図書館を作っていくという言葉が良かった。ネットワークは支えあうだけでなく、高めあっていくことが大切なのですね。
＊大変参考になるお話をたくさん聞けてよかったです。お話の中にあった「私が目録よ」と胸をはれる日がくるようがんばります。
＊大変興味深いお話でした。富山市の場合、トップダウンで学校図書館を考える組織が見えないところが、学校図書館活用の広がらない要因だと思っています。教育委員会、校長会あたりで、今日のような話が認知されるようになれば、図書館利用が広がり、学習活動全体に深まりが出るのですが。
＊現場に勤務する学校司書として、先生方とのかかわりに重要さを感じています。司書教諭との仕事分担や先生方とのかかわりについて、ヒントを得たことがたくさんありました。
＊大変、勉強になりました。司書の仕事の可能性を広げるために勉強が必要だと思いました。
＊今年９月から、学校図書館指導員になった、まだまだ新米の私ですが、最後の質問タイムの先生との関係については、まさに私が感じていることと同じでした。長い間やっていらした高桑さんも同じなんだと安心したような、深い問題のような。とにかく、今後、学校の先生方との連携を密にすることに努力したいと思います。
＊図書館をどのようにたくさん、子どもたちや先生方に使ってもらうかということをとても悩んでいたのですが、参考になることを聞かせていただきました。
＊このように勉強させていただける機会は本当に貴重です。また企画してください。
＊学校図書館の役割やあり方がよくわかりました。
＊自分の住んでいる町では、まだまだ学校司書の導入するた。ネットワークの進んでいる市川市の先進的な取り組みのすばらしさに驚くばかりです。富山でも、少しでも活動が広がるといいですね。
＊理論より、現場の方の話が実際的ですね。